

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表おける

○事業所名	児童発達支援 放課後等デイサービス つなぐ		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日 ～ 2026年 2月 28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2 (回答者数)	2
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日 ～ 2026年 2月 28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	建物が2階建てで、徒歩圏内（大人の歩行で5～10分以内）に2カ所の公園があり、活動スペースが十分確保される。	体力作りのため階段の登り降りを取り入れたり、活動レベルに合わせた遊びの提供や内容に合わせた場所の選択をしている。	施設に身体を使う遊具等の設備が少ない為、公共施設を利用しながら活発な活動を促していく。 また事業所内でも工夫して活動が促せるように取り組む。
2	子どもの理解・認知力に合わせた関わりをしている。	会話や文字などの言語的コミュニケーションだけではなく身振り手振りや表情など非言語的なコミュニケーションを使いながら子どもに伝わりやすいコミュニケーションを意識して関わっている。	言葉に合わせた動作を繰り返すことで、認知につなげていく。 必要箇所にはイラストで示すなど視覚的なアプローチも行う。
3	日常生活動作習得に向けて積極的に経験をしている。	トイレトレーニングは自立度に合わせて使用物品を変え、排尿パターンに合わせた誘導を行っている。 食事の自立に向けて摂食動作の練習をし、食事に集中できるように環境調整をしている。	まだ排尿パターンが確立されていないことが多いので、こちらでタイミングを計り、成功体験を積み重ねられるように支援していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用状況によっては、活動スペースの確保が十分でない	人員配置的に余裕がなく、安全を優先するために部屋の移動ができない場面がある。 フロアを分けて活動できていない事がある。	人員確保に努め、余裕のある人員配置となるように調整をする。 現在人員は揃ってきており課題の改善が出来てきています。
2			
3			